



これまで積み上げてきた幼・保・小・小中の連携を基本方針としてまとめ、園・学校・家庭・地域が一体となり、15年間の切れ目のない、より質の高い教育・保育の充実を図る

乳児保育

◎愛着関係の形成

➢ 非認知能力の育成

- 【受け取る力】
- ・応答的なかわり
 - ・話し手の目を見る
 - ・安心して人が傍にいる
- 【伝える力】
- ・思いをしぐさや言葉で表す
 - ・あいさつや返事をする

各園(岸幼稚園・向原保育園・やまきたこども園)

*推進園:岸幼稚園 やまきたこども園

3園で「山北こども研究会」を構成し、「主体的に活動できる環境の工夫」を共通のテーマに研究を推進する

- ・外部講師(お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション寄付講座教授、お茶の水女子大学こども園アドバイザー 宮里暁美氏)を招聘しての公開保育・研究会の開催
- ・小学校との滑らかな接続をめざし、小・中学校の授業公開、研究会への参加と行事等をおして、職員間や幼児・児童・生徒の交流を積極的に行う

令和5年度かながわ学びづくり推進地域研究委託事業

<研究委託のテーマ1>

家庭・地域とともに取り組むカリキュラム・マネジメント 山北町



研究テーマ

社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることが できる人間力と社会力の育成



めざす子ども像、具体的な姿を全職員で共有して、研究を進めています。

<めざす子ども像 5歳>

- 明るく元気で思いやりのある子
- 自分で考えて表現する子
- 自然に親しみ、地域とのふれあいを大切に子

幼児教育

◎人と積極的に関わる力の育成

➢ 非認知能力の育成

- 【受け取る力】
- ・話し手の目を見る
 - ・反応する
 - ・最後まで聞く
- 【伝える力】
- ・あいさつや返事をする
 - ・遊びの中で、知っている言葉を使い自分の気持ち伝える
 - ・困ったことを伝える



<めざす子ども像 15歳>

- 意欲を持ち学びつづける子
- 人とかかわる力や思いやりのある子
- 運動に親しみ、健康で笑顔あふれる子
- 自らすすんで自己表現できる子
- 国際感覚とともに郷土に愛着を持つ子

小学校教育

◎対話力の育成

- 非認知能力育成の継続
- 主体的に学ぶ力の育成

【受け取る力】

- ・相手の話を共感的に最後まで聞く
 - ・自分の考えと比べながら聞く
 - ・相手の考えや意図を理解しようとして聞く
- 【伝える力】
- ・自分の立場を明確にし、根拠や理由をつけながら発言する
 - ・相手に伝わりやすいように話す
 - ・友達との考えとつなげて話す

小学校(推進校:川村小学校)

- ・研究テーマ「人権を尊重し、互いに認め合い励ましあって、ともに伸びていく子供の育成へ」を学びを感じ、授業の創造～」を設定し、国語科・社会科を中心に子どもが主体となる学びを支える授業、対話的な学びを生かす授業づくりをめざす。
- ・外部講師(早稲田大学教授 小林宏己氏)を招聘しての授業研究

中学校教育

◎社会的表現力の育成

➢ 育ててきた非認知能力を社会で生かす思考力・判断力・表現力の育成

【受け取る力】

- ・相手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめる
 - ・聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりする
- 【伝える力】
- ・根拠をもとに自分の立場を明確にし、相手が理解納得できるよう論理の展開を考えて説明する
 - ・場の状況に応じて言葉や表現を工夫し、分かりやすく伝える
 - ・合意形成に向け、互いの発言を生かしながら話し合う

中学校(推進校:山北中学校)

- ・研究テーマ「主体的・対話的で深い学びづくり～社会で生かせる、思考力・判断力・表現力を育むために～」を設定し、単元を貫く学習課題の設定と学習評価に主眼をおいた授業づくり・授業改善をおして、子どもたちの「社会で生かせる思考力・判断力・表現力」を育成する
- ・外部講師(元帝京大学小学校相談役 矢野英明氏)を招聘しての授業研究



社会の中で他者とよりよく関わりながら、自分らしく生きる山北の子ども

今年度研究推進の重点

●0歳から15歳までの一貫教育・保育のさらなる推進

- *園・学校研究の深化
- *持続可能な連携・交流のあり方検討
- *山北スタンダードカリキュラムの活用促進と見直し
- *5分野のカリキュラムの作成(食育・外国語・やまきた学び・接続・コミュニケーション)
- *園・学校間交流事業の促進
- *教職員の異校種間体験研修

次年度の研究方向

●0歳から15歳までの一貫教育・保育のさらなる推進

- *園・学校研究の深化
- *持続可能な連携・交流のあり方検討
- *山北スタンダードカリキュラムの活用促進と見直し
- *今年度作成の5分野のカリキュラムの活用促進と見直し
- *4分野(人権・健康体力・特別支援・ICT)のカリキュラムの作成
- *園・学校間交流事業の促進
- *家庭・地域への周知

今年度の実践より

*異校種間体験研修

- ・各園から小学校
- ・小学校から各園と中学校
- ・中学校から小学校

1日の生活の体験的な研修を実施

◎参加した先生から

「小学校で楽しみながら学習している姿を見て、幼児期にどのような遊びが必要か、教師の援助や環境について改めて考える機会となった。」

「給食の流れや方法も知りよい刺激となった。」



*カリキュラム作成

◎作成に関わった先生から

「カリキュラムを作成することで、系統性が見えるようになった。」

「それぞれの校種の学習内容や活動が分かったり、この後どのような学びにつなげるかを知れたりしたことで、保育や授業を考える参考となった。」

次年度実践しながら見直しを図り、よりよいカリキュラムにしたい。